

本号の特集は、直接には2016年10月8日清華大学(中国、北京)における国際シンポジウム、「1940年代戦時宣伝及媒体表象」に由来する。本シンポジウムは、共同研究「建国前夜のプロパガンダ・メディア表象——劇場文化と身体芸術のコラボレーション」(2015-2017年度・基盤研究(B)・一般、研究代表者:星野幸代)と、研究分担者3名が重なっているもう一つの科研グループ(代表:関西学院大学・西村正男教授)および清華大学日本学センターが企画し、本センターが共催した。本号の特集はシンポジウム登壇者のうち、音楽学、中国文学、メディア学に軸足を置きつつ、日中戦争期の諸芸術を研究対象の一つとする4名で構成した。こうした学際的な共同研究は昨今奨励されているが、実のところ共同研究者たちがそろって研究報告できる場合は、口頭、論文ともにさほど多くはない。本特集を容れて違和感のないところが、『JunCture』が東アジア研究の知的結節点たる所以であろう。

今回、編集委員長の不手際によりデザイナーの金武さん、また編集担当の大木龍之介さん、奥村華子さん(五十音順です)には短期間に作業が集中してしまったが、お蔭をもって例年通り刊行に漕ぎつけることが出来た。心より感謝申し上げたい。またそのひずみが多くの方に波及したに違いなく、方々にお詫びとともに御協力への感謝を申し上げたい。

最後に読者の皆様へ、「アジアの中の日本文化」研究センターとしては最後の『JunCture』、第9号をお届けいたします(『JunCture』は継続予定)。論考につきましては各執筆者に御意見、御指摘賜われればと存じます。レビューにつきましては、皆様に刺激的なインデックス、或いは有益な情報となれば幸いです。